

【全体概要】

- 本県では、マスカット・ベリーAから消費者ニーズの高い大粒系品種への改植・導入を推進してきた。近年、全国的に人気となっている「シャインマスカット」の本県での栽培面積は少なく、有望品種に位置づけ栽培技術の確立と生産振興を図る。
- 既存の果樹棚よりも低コストな果樹棚の実証と普及に取り組み、新規栽培者を確保し産地育成を目指す。

新品種・新技術等の概要

○品種「シャインマスカット」

農研機構の開発品種で、本県では平成24年から導入し、現在64aを栽培。

○開花始め期の新梢強摘心による果粒肥大促進技術

開花始め期に房先に6葉残して新梢先端を摘心することにより、果粒肥大が促進する。

○光反射シート敷設による収量向上技術

棚下に光反射シートを敷設して棚下の光条件を改善することにより、収量が向上する。

○ブドウ「シャインマスカット」専用カラーチャート

果皮色から収穫適期を簡易に判定する。

○水稻育苗ハウスを利用したアーチ栽培技術

水稻育苗跡のハウスを利用してブドウ栽培を行い、果樹棚の費用を抑える。

○低コスト簡易雨よけ栽培技術

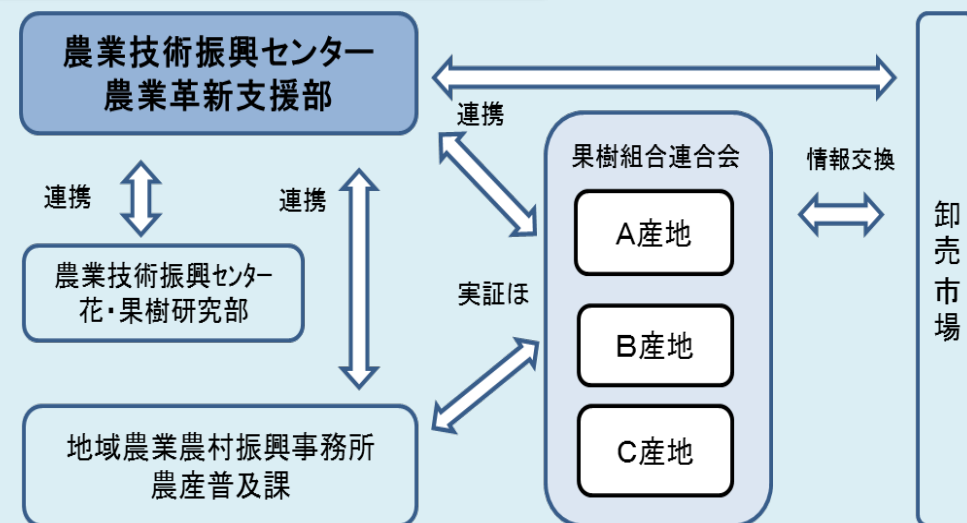
Φ25mmの直管パイプを加工した簡易棚を作成し、果樹棚の費用を抑える。



主な取組内容

- ・「シャインマスカット」の果実品質・収量の向上を目的として、「開花始め期の新梢強摘心による果粒肥大促進技術」と「光反射シート敷設による収量向上技術」について、5地域で実証ほを設置。
- ・果樹棚の導入費用を抑える対策として、「水稻育苗ハウスを利用したアーチ栽培技術」と「低コスト簡易雨よけ栽培技術」について、3地域で果樹棚を設置。
- ・実証ほを活用した現地検討会の開催と、県域の生産振興大会の開催。
- ・産地間連携による出荷規格の統一化。

実施体制図



課題と今後の対応

- ・「光反射シート敷設による収量向上技術」の増収効果を実証できた。
- ・簡易棚の部材費は約85万円/10aで自家施工も可能で、既存の平棚と比較して低コストを実証できた。
- 【残された課題】
- ・水稻育苗ハウスを利用したアーチ栽培について、水稻育苗の運搬時においても棚面が障害とならない導入方法の検討
- ・「開花始め期の新梢強摘心による果粒肥大促進技術」による肥大効果の検証
- 【今後の対応】
- ・果粒肥大技術について再度取り組み技術確立を図る。
- ・栽培技術マニュアル、簡易棚の施行マニュアルを作成する。